

文学部 英文学科

Study



University
of Victoria



Abroad

Program



CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	1
出願選考について	1
SA プログラムの単位認定について	2
出発までのスケジュール	3
University College Dublin	4
Fontbonne University	7
University of Victoria	9
SA プログラム参加体験記	11
SA プログラムのサポート体制について	17
英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン	18

スタディ・アブロード（SA）プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、

世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

英文学科には4つのSAプログラムがありますが、目的はそれぞれ異なります。

自分に合ったプログラムを選んで出願してください。

(1) 夏期 SA プログラム (University College Dublin)

アイルランド共和国の首都ダブリンの名門大学 University College Dublin (UCD) での、3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉学意欲を高めることが目的です。

(2) 秋学期 SA プログラム (University College Dublin)

夏期 SA プログラムと同じ UCD での約4か月間または約7か月間の語学研修プログラムです。長期にわたって英語圏で生活し勉強することによって、さらなる英語力アップをめざします。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることも、大切な目的です。

(3) 秋学期 SA プログラム (Fontbonne University)

アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあるフォントボン大学で約4か月間か約7か月間、正規の学生として、英語だけでなく、さまざまな分野の専門科目を学びます。アメリカ人学生と一緒に専門科目を学んだり、現地の人々や他国からの留学生と交流したりすることにより、英語力だけでなく専門的知識を身につけ、同時に異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めることを目指します。自国の文化への興味と理解を深め、国際的な視野を持つきっかけにすることも、目的の一つです。

(4) 秋学期 SA プログラム (University of Victoria)

カナダにある名門総合大学、ヴィクトリア大学での約4か月間の語学研修プログラムです。優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら英語を学習する

ことで、語学力を向上させるとともに、帰国後の英語と英語文化の学習への意欲を高めることが目的です。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めます。

■出願資格

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる者
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる者

■選考方法

夏期 SA プログラム (UCD) と、秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア) とでは、選考方法が異なります。

① 夏期 SA プログラム (UCD)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

② 秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア)

応募人数に関わらず、両方とも書類選考と面接試験をおこないます。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉学意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※出願に際しては、コースにより出願資格や選考方法が変更になることがありますので、詳しくは秋に実施される SA 説明会に参加してください。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

単位認定

英文学科が実施する SA プログラムは 3 カ国 4 コースからなります。

いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、

帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、

本学の卒業所要単位として認められます。

※詳細は最終頁「英文 S A 単位読み替えに関するガイドライン」にて
確認してください。

University College Dublin (UCD)

2 つのプログラム（夏期・秋学期）は、いずれもユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン(UCD)の語学研修機関である UCD Applied Language Centre の English Language Courses のプログラムを受講します。

■ 夏期 SA プログラム

8 月に約 3 週間のコースとして開講される Summer Program に参加します。帰国後、所定の手続きや審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置されている「海外英語演習」4 単位が認められます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、「海外英語演習」を履修登録する必要があります。

■ 秋学期 SA プログラム

約 4 カ月間か約 7 カ月間のコースを受講します。語学力向上のための授業が中心です。そのほか、社会や文化などに関する科目も用意されています。

帰国後、各自が現地で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

※コース内容は毎年変更されます。

Fontbonne University

約 4 カ月間のプログラムです。フォントボン大学では、正規課程の授業と Intensive English Program(通称 ESL コースと呼ばれている英語集中授業)を履修することができます。

正規課程の開講科目は、文化、ファッション、メディア、ジェンダー、スポーツ、心理学など、幅広いジャンルにわたっています。現地スタッフのアドバイスを受け、自分の希望と英語力を考慮し科目履修を決めていきます。帰国後、フォントボン大学での修得単位を文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

University of Victoria

約 4 カ月間のコースを受講します。英語力向上を目指したカリキュラムで、自由時間の文化体験活動等も充実しています。

帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

スケジュール

選考年度

10月下旬～11月中旬	説明会
10月中旬～11月中旬	出願期間
11月下旬～12月上旬	選考 結果発表 渡航先決定

実施年度

3～5月	ビザ・渡航説明会 事前指導
7～8月	危機管理ガイダンス・ 直前ミーティングほか
8月	出発

(※夏期 SA に参加希望の 1 年生は 4 月に
募集・出願・選考)

参加決定後～SA 出発までの準備

① パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します（取得費用は各自の負担）。すでにパスポートを持っていたとしても、SA 期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、更新手続きが必要です。

② SA 先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の 2 月以降）

SA 先大学への入学願書を記入して SA 担当に提出します。その他 SA 先によって必要な書類がありますので順次、準備を進めていきます。

③ ビザ・渡航説明会（実施年度の 3 月～5 月）

SA 参加にあたって学生ビザの取得が必要となるため、ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスです。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④ 先輩との交流会（実施年度の 3 月～6 月）

昨年度 SA に参加した学生から、SA 先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

⑤ 危機管理ガイダンス（実施年度の 7 月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきかについて、海外旅行保険の使い方も含め詳しい説明をおこないます。

⑥ 英文残高証明書（実施年度の 4 月頃から）

各国の入国管理局の指示により、米国の留学ビザ取得の際には、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります（4 月の現地への入学申込書提出の際にも必要）。これは留学中の支払能力を証明するもので、2018 年度は 300 万円以上が必要となりました（証明書発行後の預金移動は制限されません）。詳しくは SA 説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑦ SA 費用の支払い（実施年度の 7 月頃）

各プログラムの SA 費用と奨学金はそれぞれ 6、7、9 ページに今年度概算を記載してあります。参加費用は為替レートの変動により、大きく変わることがありますので、余裕を持った資金準備をお願いします。7 月頃、保証人宛への書類送付をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と相殺します。

⑧ 直前ミーティング

出発の約 2 週間前におこなわれるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA 出発に向けた最終案内をします。

University College Dublin

基本情報



【所在地】アイルランド ダブリン州ベルフィールド

【受入機関】UCD Applied Language Centre

【対象】夏 期：英文学科の1年生以上

秋学期：英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】夏 期：25名以内 秋学期：10名以内

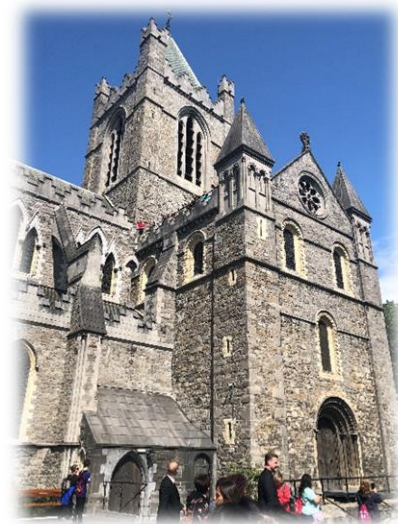
【留学予定期間】夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）

秋学期：①9月上旬～12月中旬（約4か月間）

②9月上旬～3月下旬（約7か月間）

（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】大学内の寮またはホームステイ



■大学概要

1854年に創設されたUCDは、アイルランドを代表する大学で、国際交流や留学生教育に豊富な経験を持っています。この優れた教育施設で、さまざまな国籍の学生と一緒に英語とアイルランド文化を学びます。UCDは、ダブリンの中心部からバスで15分ほどの静かな環境にあります。交通の便はよく、治安もとてもよい地域です。

■生活環境

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で30分も移動すれば、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。



【夏期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は3週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター(Applied Language Centre)に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前9時から午後1時までの4時間が教室での学習時間です。初めの2時間が教科書を使用した総合的な英語学習、次の2時間はアイルランドの歴史や文化(文学、経済、社会、映画、音楽など)の学習にあたられます。午後には名所めぐりやアイリッシュ・ダンスなどの文化プログラムがあります。

【時間割例】(途中に適宜休憩が入ります)

1限・2限 9:00-11:00	英語総合学習(4技能)
3限・4限 11:00-13:00	アイルランドの歴史、文化等
午後	【ソーシャルプログラム】James Joyce Tower Museum 訪問等

※コース内容は変更されることがあります。

■宿泊施設

参加学生はUCDのキャンパス内の学生寮、またはホームステイを選択できます。寮は一人部屋で、トイレ、シャワー、キッチン、リビングが共有となり、自炊です。キャンパスからは市内行きのバスが出ており、ダウンタウンにすぐに行くことができます。

■費用について

下記の費用は2019年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

【2019年度実績】(ホームステイの場合)

航空運賃(空港施設利用料など含む)	185,960円
海外旅行総合保険料(全員加入)	9,250円
現地費用(授業料、登録料、宿泊費、送迎費など)※	192,265円
(1ユーロ=124.042円で換算(1,550ユーロ))	
費用合計	387,475円

※ その他の費用について

食費: ホームステイの場合、上記料金に食事代(平日2食、週末3食)が含まれます。寮の場合は、自炊、学食など別途、食費が必要です。

交通費: ホームステイの場合、通学バス代(約5千円程度)が別途かかることがあります。

その他: テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

【参考】

文学部奨学金※	約 60,000円
参加者負担費用	約 330,000円

※ 奨学金について

JASSO(日本学生支援機構)奨学金8万円、あるいは法政大学からの奨学金5万円分程度を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

【秋学期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は約 4 か月間か約 7 か月間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1 クラスの人数は 14 名ほどで、UCD の語学センター (Applied Language Centre) に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前または午後からの 4 時間が教室での学習時間です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、文法、エッセイの書き方、プレゼンテーションと英語漬けになります。さらに、週に 2 日午後の時間に、IELTS 対策講座があります。帰国前には全員 IELTS を受験します。

【時間割例】

1 限・2 限 9:00-11:00	EAS (総合的な英語学習・4 技能)
3 限・4 限 11:00-13:00	Academic Skills
午 後 14:00-16:00	IELTS PREPARATION

※コース内容は変更されることがあります。

■宿泊施設

参加学生は UCD のキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

下記の費用は 2019 年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA 期間中の法政大学の学費はこの SA 費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【2019 年度実績】(4 か月間の場合)

航空運賃(空港施設利用料など含む)	190,960 円
海外旅行総合保険料(全員加入)	37,730 円
現地費用(授業料、登録料、宿泊費、送迎費など) ※	964,608 円
(1 ユーロ=123.13 円で換算 7,834 ユーロ)	
費用合計	1,193,298 円

※その他の費用について

食 費: 上記料金に食事代(平日 2 食、週末 3 食)が含まれます。

交通費: 通学バス代(約 5 千円程度)が別途かかることがあります。

その他: テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

【参考】

奨学金 ※	約 240,000 円
参加者負担費用	約 953,300 円

(7 か月間の場合には参加者負担総額 130 万円程)

※奨学金について

JASSO(日本学生支援機構)奨学金は SA 期間中につき、毎月 8 万円、あるいは法政大学からの奨学金は月 5 万円分程度の金額(一括納入)を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

Fontbonne University

基本情報



- 【所在地】 アメリカ合衆国 ミズーリ州セントルイス
- 【受入機関】 International Affairs, Fontbonne University
- 【対象】 英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）
- 【参加人数】 8名以内
- 【留学予定期間】 ①8月中旬～12月中旬（約4ヵ月間）
②8月中旬～3月上旬（約7ヵ月間）
（留学期間は変更になる場合があります。）



【宿泊施設】 大学内の寮

大学概要

フォントボン大学は、男女共学のカトリック系4年生大学で、学生数は約2,800人、教員は414人であり、学生対教員の比率は7対1と少人数で学びやすい環境です。

授業の内容と特色

フォントボン大学では英語のレベルにより、履修できる学部正規科目の科目数が異なります。

【正規科目3～4科目を受講する場合】

TOEFL iBT 61点、TOEFL 500点、TOEIC 650点、IELTS 5、もしくは英検準1級以上程度の英語の能力を有する者

【ESLコースと正規科目1科目を受講する場合】

TOEFL iBT 46点、TOEFL 450点、TOEIC 500点、もしくは英検2級程度の英語の能力を有する者

正規授業の一例

英米文学や言語学の科目に加え、College Writing Skills, Introduction to Western Civilization, Women and Gender Studies, Argumentation and Debate, Mass Media, Interpersonal Communication, Public Speaking 等から選択できます。

【時間割の一例】 正規科目を4科目、ESLコースを2科目履修したある学生の時間割

	月	火	水	木	金
9:00-10:45		Public Speaking		Public Speaking	
10:45-12:15	Introduction to Sports Management	ESL Reading	Introduction to Sports Management	ESL Reading	
12:30-13:45	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills
14:00-15:15		Media, Technology, and Culture		Media, Technology, and Culture	

■生活環境

大学のキャンパスは、高級住宅地やワシントン大学などに近い、閑静なたたずまいの中にあります。徒歩圏内には若者たちでにぎわうショッピング通りやスーパーマーケット、カフェなどがあります。

■宿泊施設

参加学生は全員フォントボン大学のキャンパス内の学生寮（2人部屋）に滞在します。寮には自動販売機、電子レンジ、レクリエーションルーム、コインランドリー、24時間使用可能なコンピュータラウンジなどが備わっています。シャワーはフロア毎の共同です。キャンパスは校舎外も含めてワイヤレス・インターネット環境です。週に14回程度の食事付で、学内には2カ所の食堂があります。

■費用について

下記の費用は2019年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【2019年度実績】（7ヶ月間）

航空運賃(空港施設利用料等含む)	340,460 円
海外旅行総合保険料(全員加入)	68,890 円
現地費用(授業料、送迎費用、アクティビティ費用など含む) ※	
	2,217,031 円
(1ドル = 108.79 円で換算) 20,379ドル)	
費用合計	2,626,381 円

※ その他の費用について

テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

【参考】

奨学金 ※2	約 480,000 円
参加者負担費用	約 2,146,400 円

(4ヶ月間の場合には参加者負担総額 170 万円程)

※ 奨 学 金 に つ い て

JASSO（日本学生支援機構）奨学金はSA期間中につき、毎月8万円、あるいは法政大学からの奨学金は月5万円分程度の金額（一括納入）を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

University of Victoria

基本情報



【所在地】カナダ ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア

【受入機関】English Language Centre, Division of Continuing Studies, University of Victoria

【対象】2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】10名以内

【留学予定期間】9月上旬～12月中旬（約4ヵ月間）

【宿泊施設】ホームステイ

大学概要

世界的に知られている名門総合大学です。1903年に Victoria College として設立され、1963年に University of Victoria となりました。学生数は約2万人です。国際交流、留学生教育に関して豊富な経験を持つ優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら、英語と英語文化を学習します。ヴィクトリアはカナダのバンクーバーから飛行機で約30分の場所に位置しています。生活の便は良く、治安も良い場所です。

生活環境

カナダ本土から少し離れたバンクーバー島にあるヴィクトリアは、英国風の建物も多く、おもむきのある街並みが特徴です。年間を通して温暖な気候のため、ガーデニングも盛んで、ガーデンシティと呼ばれるほど美しく、観光の町でもあります。ダウンタウンにはショッピングセンターもあり、さらに周囲を海に囲まれているためホエールウォッチングも有名です。

授業の内容と特色

クラスは習熟度別に6段階に分かれ、授業は月曜から金曜まで一週間に30時間おこなわれます。少人数教育で、ヴィクトリア大学の語学センター（English Language Centre）に所属するイ

ンストラクターが、英語を母国語としない EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当します。プログラムの後半にはプレゼンテーションをメインとした授業があり、自分の力で英語での発表を準備するノウハウを学ぶことができます。



■宿泊施設

参加学生はヴィクトリアのキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

約 100 万円程度を予定しております。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

※1 その他の費用について

食 費：ホームステイの場合、上記料金に食事代（平日・週末ともに 3 食）が含まれます。

交通費：ホームステイの場合、上記料金に通学バス代が含まれます。

その他：テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 奨 学 金 に つ い て

JASSO（日本学生支援機構）毎月奨学金 8 万円，あるいは法政大学からの毎月奨学金 5 万円分程度を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記①

私は以前から将来英語を使った職業に就きたいと感じていました。その為、英文学科に進学し英語を学んできました。しかし、日本国内にいただけでは、生の英語を感じられる機会はあまりなく本場の英語を感じたいと思い、今回の留学を決めました。

20 時間に及ぶフライトを終え、アイルランドに着くと日本よりも涼しく、湿度も高くない快適な地に驚きました。ホストファミリーは大変優しく、初日から近くの町に連れていってくれたり、港町を紹介してくれたりしました。

平日の午前は大学の授業が行われ、中国、アラブ首長国連邦、クウェート、スペインなど様々な国の生徒が来ていて、英語はもちろんのこと他国の文化や考え方も学ぶことができました。

先生たちは親切に優しく向き合ってくれて、分からないことや聞き取れないことがあれば、言い直したり、他の言い方を使って伝えてくれたりしました。日が経つに連れて授業もより理解できるようになり、あっという間に授業が終わるように感じました。

午後や土日は自由行動ができるので、様々な観光地を訪れました。アイルランドで作られていて黒ビールで有名なギネスビールの工場見学や、バトラーズチョコレート工場見学、テンプルバーというアイルランド料理を楽しめる地区に行きました。スターウォーズにも登場するトリニティカレッジの図書室は圧巻されました。また、アイルランドには広大な自然が数多くあり、綺麗な木々や海を見ることができました。

アイルランドはラグビーが大変盛んに行われている国で、町の中心にスタジアムがあり簡単にアクセスできたので、週末にアイルランドと、

2019 年度 UC ダブリン夏期

高橋 翼

イタリアの代表選を見に行きました。私は、小学生から高校生の頃にラグビーをしていたこともあり、以前から海外でラグビーの試合を見たいと思っていたので、とても熱中して観戦していました。ワールドカップで日本とアイルランドが同じブロックで戦うことも何かの縁を感じました。

留学に行く前にはコミュニケーションを取れるか、授業は理解できるか、ホストファミリーとはうまく過ごせるかと不安だらけでしたが、実際に生活していくと想像以上に生きていくことができました。それと同時に英語力の足りなさも痛感しました。この留学で終わりにせず、今後の英語学習のきっかけにしたいと思います。



UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記②

私は英語を学習しているうちに一度頭で整理してから答えを出しているということに気づき、反射的に英語が使えるようになりたい、将来英語教師として働くときに留学経験をした方が良くと考えてこのプログラムに参加しました。

ホストファミリーは毎日会話する機会を設けてくれました。食事もほぼ決まった時間に提供され、洋服も溜まると洗濯してくれました。休日に学校や首都まで送ってもらったりすることもありました。私の家にはシャワーのルールはありませんでしたが、節水するように心掛けました。家事は遠慮されたので手伝わなかったです。お土産に渡したヨックモックのクッキーがとても好評でした。中国人のルームメイトがいましたが色々なアイルランドの情報を交換したり勉強の話をしたりして楽しかったです。

授業は午前中に 100 分×2 コマあります。全て英語で進みます。予習復習を徹底する必要はありませんが、出された課題はしないと授業に参加出来ないことがあります。先生達は英語が分からない事に対しては怒らないので、授業に追いつけないのならその事を伝えた方が良いです。何か対処してくれると思います。授業に積極的に参加したいなら、自分の意見をすぐに言えるようにした方が良いです（日本の事や週末の予定など）。

1 日のスケジュールはいつも前日に決めていました。特に昼食はインターネットで実際にアイルランドに行った事のある日本人のブログを見て選んでいました。観光も行きたい所をリスト化しておくのと計画をたてやすいです。

2019 年度 UC ダブリン夏期

小野 遥果

ほとんどのアイルランドの人は優しくかったです。特に首都のお店は外国人慣れしていたので英語が完璧に話せなくてもきちんと対応してくれます。チップを払わなくても大丈夫です。道で迷っていた時に優しいお婆さんが案内してくれたのが印象深かったです。物事に対して自分で何とかしてみる力、次に協力し合って問題を解決する力が付きました。

今回の留学を通して英語は自分から使わないと上達しない事に気付きました。授業も日本人が多くなると、つい日本語を話しそうになるし、買い物も最悪ボディランゲージだけで終わります。私達がカタコトの日本語でも通じるように、アイルランドの人も頑張って理解しようとしてくれます。恥ずかしがらずに単語だけでも良いのでどんどん喋った方が良かったと思います。

短期の留学でも自分で目標を持って取り組めば英語は上達します。勉強も観光も出来てとても充実した 3 週間でした。



UC ダブリン大学・秋学期 SA プログラム体験記①

私が SA に参加しようと思ったきっかけは、もともと大学に入学する前から海外で英語漬けの日々を送り、自分の英語がどれほど実用的なものなのかを感じてみたいと思っていたからです。そして、SA プログラムを利用することで法政大学の単位を取得しながら留学ができるということが分かったため、プログラムに応募をしました。

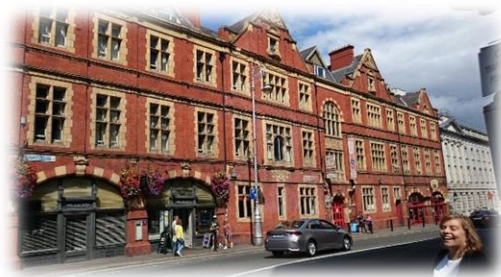
現地ではホームステイで生活をしていました。ステイ先ではホストマザーとホストシスターと猫と一緒に生活をしました。洗濯機を週に何回使えるかなど、家のルールについては初日にいろいろと確認をしましたが、特に不自由もなく自由に生活をさせてもらっていました。学校は、アイルランドの University College Dublin で、その語学コースで学びました。授業内容は、火曜と木曜のみ 3 コマで、それ以外の曜日は午前だけの授業でした。1 コマは 2 時間弱で、毎日 1 時間目に、教科書を使いながら文法をはじめとする基礎的なことを深めていく授業があり、2 時間目に、エッセイ、プレゼンテーション、そしてディスカッションなどをする実践的な内容の授業がありました。火曜と木曜の午後の授業は IELTS の対策授業でした。基本的には IELTS のクラスも専用の教科書に沿って進めていくという感じでした。私は 2 時間目の授業に関しては担当する先生と、クラスのレベル（初日のレベル分けテストによって各十数名のクラスに分けられる）によって変わってくると思いました。基本的に一番大きな課題は 1 セメスターを通して全員が書く長いアカデミックエッセイですが、プレゼンテーションを毎週するクラスもあれば、ディスカッションをたくさんするクラスもあったようです。

2019 年度 UC ダブリン秋学期 高橋七海

授業時間外はアイルランドの中心部へショッピングに行けますし、学校からバスで 10 分ほどの場所にショッピングモールがあったので、衣類などを買い足したいときは学校帰りに寄ることもできて便利でした。地方にも自然豊かで魅力的なスポットが多数あるので、週末のお休みを利用して観光をしに行くことができました。また、ヨーロッパの国々をたくさん旅行できたことはとても良い経験でした。私はイギリス、イタリア、フランスに行くことができましたが、どの国もとても魅力的でした。なによりとても短い移動時間でいろいろな国を巡ることができたので本当にいい機会でした。

SA に参加して、最初はずっと英語を聞いたり話したりし続けることが辛く感じましたが、徐々に慣れてきて積極的に話すことができるようになりました。また、ホストファミリーと積極的にコミュニケーションを取ったことや、多国籍なクラスメイト達と交流したことで異国の文化についてより深く知ることができました。毎日学ぶことだらけで、楽しかった経験も辛かった経験も全て自分自身の成長に大きくつながった三か月半でした。

これから SA に参加される皆さんは積極的になることを心がけて、留学を思いっきり楽しみ、ぜひご自身の成長に繋げてください。



UC ダブリン大学・秋学期 SA プログラム体験記②

長い間憧れていた外国で、現地でその英語をもっと上達させたいという思いと、異文化の環境に囲まれて、自分で感じてみたいと考えたため SA に参加しようと思いました。

ホームステイは、寮とは違い一つの家族に他人の私が急に入ることになるし、もちろん日本語の分かる人はいない、食が合わなかったら、など、現地に着いて実際にホストファミリーに会うまでは不安でいっぱいでした。しかし、私のホストファミリーはみんなとても優しく、何か困っていることはないか常に気にしてくれました。3人のホストブラザーとハウスメイトの女の子2人は私と歳も近くたくさん話しかけてくれました。日本に帰ってきた今でも連絡をくれてその度にこのホストファミリーでよかったと思います。全員に心の底から感謝しています。

平日は、毎朝7時半から8時の間に家を出て、30分前くらいに着くようにしていました。ダブリンのバスは時間通りに来ないためです。2限まで授業を受けたら昼食を食べて火、木曜日は授業に行きます。その他の曜日は、シティーセンターに買い物に行ったりボウリングや映画を見に行ったり、課題をしたりして帰宅します。夕飯やシャワーを済ませ、ホストファミリーとお茶を飲んだり、次の日のために早く就寝したりしていました。

正直、行く直前の7月頃いざ行くとなると少し怖くなってしまい「行きたくないか

2019 年度 UC ダブリン秋学期

沖田 葵

も」とまで思ってしまったたり、行ってから「早く日本に帰りたい」と思ってしまったりした時期がありました。しかし、今となっては行かなかったら感じるこのできなかったことが山ほどあり、本当に参加してよかったと思うし、帰ってきてからずっとダブリンに帰りたいたいと思っているほどアイルランドが大好きになりました。

SA 先では総じて楽しいことがたくさんあります。もしかしたら、現地で辛いことや大変なことも起こるかもしれないけれどそれも必ずいい経験として残ると思います。そしてアイルランド人はみんな優しくとてもフレンドリーです。周りの人に助けられることがたくさんあると思います。これから行けるなんて羨ましいです。たくさん勉強して楽しんでください。GINB の予約は早めにとることをお勧めします。



大学生のうちに絶対に留学する！という高校生の頃からの願いを叶えられた最高の四ヶ月でした。現地では寮生活を送りました。初めは現地の生徒の生活リズムやスタイルの違いに戸惑いでしたが、こんな経験をする事も貴重だと思いつつ過ごし、いつの間にかすっかり慣れていました。ルームメイトや近所の友達との何気ない会話も自分の英語力を伸ばしてくれたと思います。

私が受けていた ESL の授業は少人数で行われました。様々な国の留学生が受けていたので、多くの友達が出来ました。特にスペイン語圏やサウジアラビアから来る学生は文法を気にせず自分の意見をはっきりと述べていたので、初めは圧倒されました。日本人学生とは反対の傾向が見られて興味深かったです。また人によって沢山の意見や価値観があり、自分が普段いる世界より何倍も広い世界を体験できました。そのような学生に負けないように徐々に、自分の意見を主張できるように挑戦しました。また日本についてのプレゼンテーションを多く行ったので、沢山の学生が日本に興味を示してくれた事が嬉しかったです。授業の中での発言や会話を通して自分の英語に自信が持てたので良い機会となりました。

学校から歩いて行ける範囲にループという多くの飲食店が並ぶエリアがあるので、休日や放課後に友達と行きました。アジア料理も食べられるので恋しくなっても心配ないです。またサンクスギビングウィークの休みを利用してフロリダのディズニーワールドへ旅行に行きました。飛行機で1時間半ほどで行けます。一週間弱の休みがフォールブレイクとサンクスギビング

2019 年度フォントボン

甲斐菜々

などいくつかあるのでそれを利用して旅行に行くのも良いと思います。

放課後は学校の図書館にみんなで集まり課題をし、部屋で映画を見たりして比較的のんびりと過ごしていました。勉強する環境を変えたい時には、近くの徒歩で行けるカフェなどに行って気分転換しました。たまに外食や買い物に出かけたりと、日本にいる時よりも自由に過ごせる時間が断然多く平日でも楽しかったです。

参加する前や初めは、自分の英語が通じるか、聞き取れるか、全くの異文化の中で生活していけるのかなど本当に不安だらけでした。しかし出会いに恵まれ、アメリカだけでなく、世界中の素敵な人々に沢山支えてもらったおかげでその不安はすぐに無くなりました。キャンパスがとても小規模で生徒数も少ないので、すぐに友達の輪を広げることができるのもフォントボンの魅力の一つだと思います。留学前よりも色々なことに挑戦しようとする力が身につきましたし、何よりアメリカだけでなく、その他色々な国の異文化を知れたことで自分の世界観が大きく変わりました。このプログラムに参加して本当によかったです。

この SA は語学力を身につけられることはもちろん、異文化に浸ることで自分の視野を大きく広げられるとても素敵なプログラムだと思います。大学生活の大きな思い出になること間違いないです！



フォントボン大学・秋学期 SA プログラム体験記②

私がこの SA プログラムに参加した動機は自身の英語力の向上に合わせ外国の文化に直接触れてみたいと思ったからです。実際現地での生活は、現地の学生と共有の部屋に住み同様の生活をおくるため、いやでも英語に毎日さらされる環境でした。そのため、最初は全く英語が聞き取れない状態だった自分でも数か月するうちにだんだん耳が慣れていき、会話をすることができるようになりました。

授業内では自分は ESL クラスを履修したため、ほかの国からの留学生と一緒に授業を受けました。そこでは、各国の観光地や名所また自分の出身地などのスライドを作りプレゼンをすることで、互いの国の理解を深めると同時に自身の国の良さを再確認することができました。また、writing や speaking などの授業のほかにも TOEFL 対策のような授業も履修し、帰国後の英語技能試験でのスコアに直結した勉強もできます。

一日のスケジュールは曜日によっても異なりますが、基本的には午前中授業を受けてお昼を食べたら残りは暇でした。図書館にこもって友達と課題をしたり、レストランにご飯を食べに行ったりとのんびり過ごしていました。また、大学内でのイベントが盛んで、週末にキャンプにでかけたり、セントルイスの街を観光するツアーなどに参加したりしました。

観光地では、大学の位置しているセントルイスがアメリカのちょうど真ん中に位置しているため、比較的どこにでも行きやすい印象でした。自分は Thanksgiving の時にフロリダ、冬休みにニューヨークとカリフォルニ

2019 年度フォントボン

平野恭大

アに行きました。フロリダではディズニーとブラックフライデーではアウトレットで安売りされている服を爆買いしました。ニューヨークには年末のタイムズスクエアで行われるカウントダウンを見て、その自由の女神やエンパイアステートビルなどの観光名所を巡り楽しみました。カリフォルニアでは、一週間アメリカ人の友人の家に泊めてもらい様々なところへ連れて行ってもらいました。

この SA プログラムを通して、自分が一番よかったなと思ったことは、日本を異国の地から客観的に見たときに改めて、自国の良さを再認識できたことです。日本では当たり前のこともアメリカでは全く通用しないということを経験で感じ取り、そういったことに対して柔軟な考え方を身に付けることができました。自分の SA プログラムでの目標でもあった異文化交流を盛んに行うということも、この留学を通してしっかりと達成できたと思っています。

このフォントボンという大学は、とにかくイベントが多く現地の学生はもちろん、様々な国からの留学生と関わる機会が多くあります。そういった恵まれた環境を最大限に生かし、充実した留学生活送ってください。多少のトラブルや困難は留学にはつきものです。そういった部分もひっくるめて楽しんでほしいと思います。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

■海外旅行総合保険

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

■24 時間対応の電話アシスタンスサービス

① 病気やケガの対応

現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのように、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けたりすることができます。

② トラブルの対応

留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、SA 担当および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

■SA ポータルサイト

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、SA 担当に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがありま

す。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期間中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

■グローバル教育センターSA 担当

SA 担当では、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

(大内山校舎 2 階グローバル教育センター内)

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

■文学部担当

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9324

窓口時間

月～金 9:00～17:00 (11:30～12:30 を除く)

土曜日 9:00～12:00

【UCD 秋学期・フォントボン・ヴィクトリア参加者対象】

英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン

SA で取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) SA で取得した単位は、年度ごとに 22 単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、または ILAC 科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2) で規定された単位数と SA 先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として2)で規定される単位数の6割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修B群の「SA 認定科目 (B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8 単位を上限として選択必修A群の「SA 認定科目 (A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修A群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は4単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修C群の「SA 認定単位 (C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修C群として認定されることがある。
- 4) ILAC 科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、SA 先で4技能 (reading, writing, speaking, listening) が連動した英語科目の単位を取得すること。

③ 申請方法

- 1) 1st term 履修決定のころ (10 月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。シラバス、時間割もあわせて提出する。
- 2) 長期参加者は、2nd term 履修決定のころ (2 月頃) に 2nd term 分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに 1st term で達した方のみ) にて申請、提出する。

以上